

被爆体験の想像と「継承」

——核兵器を決して使用させないために

Depicting and Conveying the Tragedy of the A-bomb to Prevent the Use of Nuclear Weapons



国際社会では、核の恫喝が繰り返されており、核兵器が使用される危険性が高まっています。しかし、だからこそ、核兵器を決して使用させないために、被爆体験を想像するとともに継承していく必要があります。

被爆体験の継承には、証言、絵、漫画、写真、映画、芝居、AI(人工知能)、VR(仮想現実)などといったように様々な「かたち」があります。本シンポジウムでは、被爆者がいない時代の到来を見据えたうえで、これまでの継承のかたちを振り返るとともに、新たなかたちにも触れることで、被爆体験を想像しながら次世代へと紡いでいくための方途を考えていきます。

先着450人

入場無料

〈事前申込不要〉

直接会場へお越しください。

日時

2026年8月1日(土)

13:30 ~ 16:30 (開場 13:00)

会場

広島国際会議場
地下2階 ヒマワリ

広島市中区中島町1番5号 平和記念公園内

主催／広島市立大学広島平和研究所

中国新聞社

長崎大学核兵器廃絶研究センター

後援／一般社団法人ヒロシマ平和研究教育機構

■ オープニング・セッション

講演：梶本 淑子 (被爆者)

進行：高垣 慶太 (世界のヒパクシャと出会うユースセッション コーディネーター)

■ 報告者

大亀 信行 (広島高校生平和ゼミナール 世話人)

生田 聖子 (NHK コンテンツ制作局第2制作センター チーフ・プロデューサー)

藤村 潤平 (中国新聞社ヒロシマ平和メディアセンター長)

中村 桂子 (長崎大学核兵器廃絶研究センター准教授)

■ モデレーター

佐藤 史郎 (広島市立大学広島平和研究所教授)

■ オープニング・セッション Opening Session



● 梶本 淑子 Yoshiko Kajimoto, Hibakusha/A-Bomb Survivor

1931年生まれ。安田高等女学校(現安田女子中高)の3年の時、爆心地から約2.3キロの動員先の工場で被爆した。2001年から被爆体験の証言を始め、米国やフランスなど海外でも活動。2019年に広島を訪問したローマ教皇フランシスコ(当時)にも、被爆者を代表して核兵器の悲惨さや廃絶への思いを伝えた。



● 高垣 慶太 Keita Takagaki, Coordinator, The Youth Community for Global Hibakusha

広島市出身。広島・長崎で原爆救護に携わった二人の曾祖父について知ったのを機に、核問題に取り組む。大学在学中、赤十字国際委員会(ICRC)ユース代表として核兵器禁止条約の締約国会議に3度派遣。世界の核被害を学ぶ学習会「世界のヒバクシャと出会うユースセッション」を3年にわたり仲間と開催し、今年1月にブックレットを発行した。

■ 報告者 Speakers



● 大亀 信行 Nobuyuki Ookame, Coordinator, Hiroshima High School Students' Peace Seminar

1952年広島市に生まれる。1976年島根大学文理学部卒業。1976年～2017年広島国際学院高等学校(旧、広島電機大学附属高等学校)勤務・理科教員。同校・社会科学部研究部顧問。1977年から原爆瓦の発掘保存に取り組み、1978年に広島高校生平和ゼミナールの世話人となり現在に至る。原爆犠牲ヒロシマの碑維持委員会事務局長。



● 生田 聖子 Seiko Ikuta, Senior Producer, Japan Broadcasting Corporation

NHKコンテンツ制作局第2制作センター チーフ・プロデューサー。1999年にNHKに入局し、「プロフェッショナル 仕事の流儀」「クローズアップ現代」「新プロジェクトX」などの番組を主に制作。2022年からNHK広島放送局でAIを活用した被爆証言応答装置の開発に携わる。



● 藤村 潤平 Jumpei Fujimura, Director, Hiroshima Peace Media Center of the Chugoku Shimbun

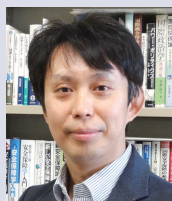
1998年に中国新聞社へ入り、松江支局、東京支社、論説委員などを経て2026年からヒロシマ平和メディアセンター長。広島市の平和記念公園になった爆心地一帯で倒れた一人一人の生と死を掘り起こした「遺影は語る」、福島第1原発事故後の住民の苦悩や科学者の格闘を追った「グレーゾーン 低線量被曝の影響」の取材班メンバー。



● 中村 桂子 Keiko Nakamura, Associate Professor, Research Center for Nuclear Weapons Abolition, Nagasaki University (RECNA)

長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)准教授。NPO法人ピースデポ事務局長を経て、2012年より現職。専門は核軍縮と市民社会、平和・軍縮教育。主な著書に『核のある世界とこれからを考えるガイドブック』(法律文化社、2020年)、共編著に『核なき北東アジアに向けて—非核兵器地帯の可能性』(地平社、2026年)などがある。

■ モデレーター Moderator



● 佐藤 史郎 Shiro Sato, Professor, Hiroshima Peace Institute, Hiroshima City University

広島市立大学広島平和研究所教授。同大学大学院平和学研究科教授。立命館大学大学院国際関係研究科博士後期課程修了。博士(国際関係学)。専門分野は国際関係論、安全保障論、平和研究。著書に『核と被爆者の国際政治学—核兵器の非人道性と安全保障のはざま』(明石書店、2022年)などがある。



■ お問い合わせ

広島市立大学広島平和研究所

Eメール: office-peace@m.hiroshima-cu.ac.jp

